

宝くじ普及広報事業で防災資機材を整備しました



「カマドセット」は炊き出しだけでなく、避難場所で暖をとることに有効



避難場所の高台には屋根のある建物がないので「テント」を購入



宝くじは
 豊かさ築く
 チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。

この記事に関するお問い合わせは

【本庁】総務課 消防防災係

☎43-2112(直通)

【佐賀総合支所】総務課 総務係

☎55-3113(直通)までお願いします。

災害時といえども生理現象は止められません。「簡易トイレ」は避難場所の必需品！



購入した資機材は、担架、真空パック毛布、テント、カマドセット、簡易トイレなどです。これらの資機材は、各地域の避難場所に設置した防災倉庫に備蓄し、災害に強い地域づくりへの基盤整備を行いました。今後は、実際に資機材を使った訓練に取り組み、災害に対して実行力のある地域づくりを目指します。

財団法人自治総合センターは宝くじの普及広報事業費として受け入れる受託事業収入を財源に、コミュニティ助成事業を行っています。昨年度は「伊田地区自主防災組織連絡会」が、この事業を活用して防災資機材を購入することができました。

問：避難場所に逃げるまでに、課題となること・心配なことはなんですか？(複数回答)

家具の転倒	28
家の耐震化	23
避難道の危険性	17
避難場所の危険性	6
自分のこと(1人で避難できないかもしれないなど)	4
家族のこと(1人で避難できない家族がいるなど)	9
その他	0
未記入	7

【住民アンケート結果の一部】

伊田地区自主防災組織連絡会の取り組みをご紹介します

伊田郷・伊田浦・灘の3つの自主防災組織は、それぞれが行ってきた防災活動をお互いに補い、活性化させることを目的に昨年5月に「伊田地区自主防災組織連絡会」を結成し、活動を進めています。

これまでに「震災の語り部による防災講演会」「自主防災訓練」「家具転倒防止講習会」「防災対策に関するアンケート」などを行っています。



伊田分団OBたちによる家具の固定作業の様子

アンケート結果からは、地域の多くの方が家具の転倒による自宅での被害について不安を抱えていることが分かりました。このことを受け「地域の被害を少なくするために、自分たちでできること」を考え「自分では器具を取り付けられない方たちの手助け(取り付け作業)をしてあげよう」ということになりました。

この活動は、家具を「固定すること」が真の目的ではないため、家具の配置を見直すことの助言もしています。

また、各家庭を訪問することで、災害時のみならず、日ごろから見守りや声かけの必要な方たちがどのような生活を送っているのかを確認し、何かあったときにすぐ対応ができるようなつながりを持つということも大切な目的となっています。自主防災組織のメンバーで家具の固定作業を実行している伊田分団OB会のみなさんは「こうした地道な取り組みを続けることで、今の時代に失いかけていけるものを取り戻すことができているのではないか」「少しでも安心して暮らすことのできる地域づくりを進めたい」とおっしゃりつつも「一気にやると息切れするので、ちよつとずつ広げていこう」と、少し力を抜いて一歩ずつ目標に向かって活動を進めています。